

研究・調査報告書

報告書番号	担当
154	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
<p>Randomized controlled trial of proactive web-based alcohol screening and brief intervention for university students. 大学生を対象とした先行的な Web を用いたアルコールスクリーニングと短期間介入の無作為化対照試験</p>	
執筆者	
Kypri K, Hallett J, Howat P, McManus A, Maycock B, Bowe S, Horton NJ.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Arch Intern Med. 2009 Sep 14;169(16):1508-14.	
キーワード	
大学生、アルコールスクリーニング、WEB プログラム	
要 旨	
<p>目的： 大学生は同年代の非学生と比べて大量飲酒を行い、彼らの飲酒が危険で標準的なレベルを超えていることに気がついていない。そこで、本研究では、先行的なWebを用いたアルコールスクリーニングとWebを用いた短期的介入プログラムの効果を検討することを目的とした。</p> <p>方法： 2007年にAustralian大学で無作為化対照試験を行った。対象者の勧誘は、学部学生13,000人（年齢：17-24歳）に、Webを用いたAlcohol Use Disorders Identification Test(AUDIT)を配布しておこなった。回答のあった学生7,237人のうち、AUDITの成績が危険/有害の得点(≥8)を得た2,435人は無作為に介入群1,251人と対照群1,184人に割り付けられた。介入群は、10分間のWebを用いた動機づけ支援と個別のフィードバックによりおこなった。対照群は、スクリーニングだけを受けた。追跡評価は、1か月後と6か月後におこなった。アウトカムは、飲酒頻度、1回飲酒量、飲酒総量(頻度×1回飲酒量)、the Alcohol Problems Scale (APS)のスコア、the Academic RoleExpectation and Alcohol Scale (AREAS)のスコア、過度飲酒の数、深酒の数とした。</p> <p>結果： AUDITのベースラインスコアの平均値(標準偏差)は、対照群で14.3(5.1)、介入群で14.2(5.1)だった。1か月後、介入群の飲酒は、対照群と比べて、飲酒頻度が少なく(rate ratio (RR): 0.89, 95%信頼区間(CI): 0.83-0.94)、1回あたりの飲酒量が少なく(RR: 0.93, 95%CI: 0.88-0.98)、飲酒総量少なかった(RR: 0.83, 95% CI: 0.78-0.90)。アルコールに関連した害に違いはみられなかった。6か月後、介入の効果は飲酒頻度(RR, 0.91;95% CI, 0.85-0.97)と飲酒総量 (RR, 0.89; 95% CI, 0.82-0.96) で持続したが、他の指標では、みられなかった。</p> <p>結論： Webを用いたスクリーニング後の介入は、大学学部学生の飲酒量を減らした。また、このようなプログラムは広く実行可能であった。</p>	